

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数 <u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105149号
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホーム かすが
訪問調査日	平成 22 年 3 月 6 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 3 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105149号		
法人名	有限会社 パッション		
事業所名	グループホーム かすが		
所在地	鹿児島県鹿児島市春日町8番25号 (電話) 099-248-1058		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月6日	評価確定日	平成22年4月3日

【情報提供票より】 (平成22年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人 非常勤3人 常勤換算13.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要 (2月18日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	9名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松岡医院 石原山下整形外科 中馬歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺は、観光名所や史跡が多く、近くには、神社や公園・スーパー等があり、恵まれた環境に位置している。町内会に加入しており、散歩時には地域の人と挨拶を交わしたり、小学校や保育園の行事に参加する等、地域との交流を図っている。利用者一人ひとりが「その人らしく生ききる」ことを支援する理念と方針を掲げ、利用者を中心に、日々のケアに取り組んでいる。また、食事は、旬の食材を使っておいしく食べてもらう工夫がなされている。管理者及び職員は、進取的で明るく、入居者と一緒に笑顔と笑い声に溢れた家庭的な雰囲気のホームである。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はなし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は、自己評価・外部評価の意義をふまえて、日々のケアの見直しをしている。また、外部評価を受けて、具体的な改善点の話し合いを行った。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は、民生委員・家族の代表・地域包括支援センターの職員・ホーム職員が参加して行っている。利用者の状況やサービス内容の報告等を行い、話し合いをして、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関には意見箱を設置し、面会時には、声かけを行って意見や要望が言えるような雰囲気をつくっている。家族会も充実していて、出された意見は、運営に反映している。
重点項目	④	町内会に加入し町内会総会の参加や神社の清掃等を行い、地域活動に参加している。小学校の学習発表会に招待を受けたり、幼稚園児の訪問でお遊戯をしてもらっている。また、認知症を抱える家族の相談や見学に来る高齢者の相談を受けるなどして、地域の人々との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々と共に協力し地域に根付いた安心な暮らしが出来るようにサポートしていきます。」という事業所独自の理念に基づく方針をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝、申し送り後に理念の唱和をして、日々の理念に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し町内会総会の参加や神社の清掃等を行い、地域活動に参加している。小学校の学習発表会に招待を受けたり、保育園児の訪問でお遊戯をしてもらっている。認知症を抱える家族の相談や見学に来る高齢者の相談を受けるなどして、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、自己評価・外部評価の意義をふまえて、日々のケアの見直しをしている。また、外部評価を受けて、具体的な改善点の話し合いを行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は、民生委員・家族の代表・地域包括支援センターの職員・ホームの職員が参加して行っている。利用者の状況やサービス内容の報告等を行い、話し合いをして、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する説明会や勉強会に参加したり、市の窓口に出かけて相談するなどして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。また家族会時や「かすが新聞」で行事等の報告をしている。金銭管理は、面会時に報告し承認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、面会時には声かけを行って、意見や要望が言えるような雰囲気をつくっている。家族会も充実していて、出された意見は運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がないように努めている。仕事の都合でお互いに1～2階に行く事もある。異動の場合は、ダメージが少ないように、馴染みの関係を大切にしながら支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、研修会後はミーティングで報告し、職員は内容を共有している。内部でも勉強会を行い研鑽している。資格取得の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流を図ると共に、他のグループホームの職員の見学を受け入れている。また、こちらからも出かけて行き交流を深めるなど、サービスの向上への取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族と懇談し、また見学に来てもらって、職員や他の利用者との関わりを持ち、雰囲気に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、歴史や料理・裁縫等、職員は利用者から人生の先輩として教わることが沢山あると気付いており、学び・支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中での態度や表情・動作から、真意を推し測ったりして把握している。困難な場合でも、家族から情報を得たりして、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催して、本人と家族・職員が、それぞれの意見や要望を話し合いながら、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行っている。また、状態の変化に応じて現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望で、訪問リハビリを取り入れたり、病院受診や買い物等、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や往診等を、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医や本人・家族と、状態の変化に応じて話し合いを行っている。重度化や終末期の方針や家族の同意書については、職員で検討・作成中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りと自尊心を傷つけないように、声かけと対応に気配りをしながら支援を行っている。記録等の個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務の都合で支援を行うことがないように、起床時間や就寝時間等、本人の気持ちを尊重して柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞きながら、入居者と職員が一緒に買い物にでかけたり、調理・配膳・台ふき・下膳を行ったりして、食事が楽しみになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴を決めているが、本人の希望や体調によって入浴している。入浴を拒む人はいないが、声かけに工夫し、入浴が楽しみになるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ・調理・配膳等、その人にあった役割分担を決めて、一緒に行っている。また、買い物やドライブ等、気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は、毎日、散歩に出かけている。また、本人の体調と希望に合わせて、ドライブや買い物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーを設置しているが、職員は、利用者の行動や言動を把握し見守りながら、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、昼・夜間想定避難訓練を行っている。運営推進会議でも意見が出て地域の方々に協力が得られるように働きかけを行っている。災害用の備蓄も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。排便の状態を観察し、体重管理も行っていて、食事のバランスを考えながら支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花が活けられ、昔なつかしい道具が置いてある。ホールや玄関に、ソファやいすがあり、畳コーナーにはコタツがある。明るいろビングの大きな窓からは、庭が眺められ、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥・布団・ソファ・椅子・鏡台・テーブル・仏壇・位牌・写真・作品等、使い慣れたものや好みのものが置かれ、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。